

2016年度支部横断企画として、「電子音響音楽研究会アジアネットワーク (EMSAN)」の日本での初めての開催に助成をしていただき、無事に終了することができました。今回のEMSANは、岐阜県のサラマンカホール及びその関連施設において3日間連続で開催された「サラマンカ電子音響音楽祭」のひとつのプログラムとして組み込まれました。

EMSANは、ソルボンヌ大学の「音楽学、情報学、新技術」のプロジェクトとして2006年に組織され、2008年に北京中央音楽院で開催された大規模な Musicacoustica2016音楽祭において研究会を発足しました。その後、ほぼ毎年10月末にMusicacoustica音楽祭の中でEMSAN研究会が開催されたほか、関連学会である「国際電子音響音楽学会 (EMS)」の年次大会 (毎年6月開催) の中でも、EMSANセッションが組まれました。さらに研究進行状況や各国に事情に応じて、適宜パリや台北などでも研究会やワークショップを行ってきました。

EMS年次大会でのEMSANセッションは、東アジアの電子音響音楽の美学、歴史、作品分析などに関する研究情報を欧米の研究者に伝えることを主な目的としています。EMSはこれまでにパリ、上海、ニューヨーク、スウェーデン、リスボン、ベルリン、シェフィールドなどで開催され、報告者はその都度、日本の電子音響音楽に関しての発表を継続してきましたが、欧米研究者から毎回高い関心が寄せられました。

一方、EMSとは関係なく随時開催されるEMSAN研究会では、東アジアの電子音響音楽に関するデータベースの作成、関連論文集の刊行、高速ネットワーク通信によるネットワーク・コンサートの企画と実施等のプロジェクトを推進してきました。EMSANデータベースには、現在1628のアジア電子音響音楽作品と、664の関連論文・記事の情報が入っています。ネットワーク・コンサートは、北京、カルガリー、ワイカト、名古屋等をネットワークで繋いで、遠隔地間でリアルタイム・アンサンブルを実現する音楽上演であり、通信技術や音声情報処理ばかりでなく、音楽自体に関する美学的議論にも発展するプロジェクトです。

今回、日本では初めてのEMSAN開催となりましたが、地方の音楽祭に組み込まれておりましたので、一般公開のためのシンポジウムという形をとりました。EMSANは日本の「先端芸術音楽創作学会 (JSSA)」と連携していますので、今回のシンポジウムのフロアにはJSSAの会員も相当数見受けられ、従って音楽祭を聞きにいらしたお客様、JSSAの学会員、その他の地元大学生といった方々にお集りいただいたこととなります。そうして今回の参加者はおよそ40名

程度となりました。

発表者は、EMSANの代表である Marc Battier氏、塩野衛子氏、小島有利子氏、喜多敏博氏、宮木朝子氏、水野、の6名でした。<Transmission and Communication in Asian Electroacoustic Music>をテーマとし比較的自由的な内容・形式の発表を公募し、発表時間を20分と設定しました。また、発表者のプロフィールや顔写真と発表概要を掲載する冊子を印刷し、発表者、関係者、オーディエンスに配布しました。

当日は、電子音響音楽の用語に関する語源学や文学のコンテクスト（塩野氏）、作品分析（小島氏）、今日の創作課題としての異文化の受容と変容（Battier氏）、遠隔性（水野）が議論され、また、聴衆参加のためのオリジナル開発プログラムのデモンストレーション（喜多氏）や自作解説（宮木氏）が行われました。各発表の詳細内容はEMSANによってオンラインで出版するため、現在原稿集約中です。

英語、フランス語、日本語によって、発表者とフロアの議論も活発に行われ、充実した会となりました。助成に心より感謝いたします。